

巻 頭 言

北海道算数数学教育会

高等学校部会長 細 部 人 嗣

(北海道苫小牧東高等学校長)

北海道算数数学教育会高校部会が全国的に脚光を浴びるようになった要素の一つに数学コンテストの開催がある。今年で第27回目を数える。これも偏に研究部の先生方を中心とする、全道各地の数学教師の皆さんの熱意の賜と感謝申し上げる次第であります。

この数学コンテストの第1回目は1983年に行われた。発足当時の目的は「北海道の数学教育の向上と、数学好きの高校生や中学生に刺激を与える」というふうに聞いている。

昨今、経済協力開発機構(OECD)が行っている学習到達度調査(PISA)や国際教育到達度学会(IEA)による国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の結果が、いずれも日本の初等中等教育の段階において学力が前回調査より若干下回り、世界の上位ランクから脱落しているという内容を報じた。

この要因は「学習への関心や興味の持ち方が低いこと、家庭での学習や読書の時間などの学習するための環境が上位層の国と比較すると著しく少ない」ことによるものであると報じている。特に日本が得意としてきた理数系科目における低迷が浮き彫りになっており関係する人々に不快感を与え、科学・技術立国を目指す日本の将来が憂慮されている。

数学は現代の科学・技術文明を支える土台であり、水や空気のようにほとんど意識されることなく使われている道具としての数学も、過去には一部の優れた数学者しか理解できない難解な学問であったが、新しい科学・技術の進展には数学が大切な役割を果たしてきた。数学を学び深く追求することは、将来の日本にとっても、科学・技術の進展にとっても大切である。

今回の第27回の数学コンテストは参加校27校、申込数339(当日欠席62名)が参加して行われた。解答には学年での履修内容を超えているもの、発想の豊かさ・着眼点のユニークさ等の目を引くものが数多くあり、数学の学力不足や興味・関心度率が低いなどの問題点を払拭してくれた。更に数学的な才能を持った生徒や隠れた才能の持ち主を発見することができ、関係者を喜ばしてくれている。このコンテストの取り組みの環境の場が子供達に刺激を与え、発足時から受け継がれている明日の数学教育を支える人材の育成の場であり、発掘の場となっていることが実感できて嬉しく思っている。今後ますます発展していくことを念じて止まない。

最後になりましたが、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道新聞社の後援、並びにベネッセコーポレーション、北海道電力、北海道情報大学、予備校クラブユニック、IMS数学英語ゼミ、現役予備校TANJIのご協賛に厚くお礼と感謝を申し上げます。

また、問題作成や採点、そして、この会の運営全般にボランティアでご苦勞されました北数教高校部会代数解析研究部の諸先生方、さらには全道各地で実施にご協力を戴きました会場校の関係の先生方に心から感謝申し上げ巻頭の挨拶といたします。